

# 助け合い～菊池～ 田舎（inaka）に愛（i）が入って 良い仲（iinaka）に

中武 郁子<sup>1</sup>・岩本 敏<sup>2</sup>・岩本 祐一郎<sup>3</sup>・西嶋 廣<sup>4</sup>

<sup>1</sup>菊池市役所 総務部財政課 参事

<sup>2</sup>菊池市役所 市民環境部地籍調査課 参事

<sup>3</sup>菊池市役所 経済部商工観光課 参事

<sup>4</sup>菊池市役所 健康福祉部子育て支援課 主事

菊池市における、人口減少のために軽薄化している地域コミュニティを再形成させるため、高齢者の「生きがい」につながる3つの施策を行います。1つ目の施策「高齢者が移住しやすい環境づくり」では、利便性の高い住宅地域、自然あふれる中山間地域が混在している特性を生かし、「選べる移住」を提案します。2つ目の施策「子育て応援プロジェクト」では、孫世代との交流によって子育て世代の負担軽減を図ります。3つ目の施策「買い物支援」では、介護予防支援事業とマッチングさせた移動販売事業の充実を図ります。

## 1. 政策提案の背景

H27 国勢調査によると、菊池市の人口減少率（H22 比）は△4.0%で、全国平均△0.7%、県平均△1.7%と比べて、減少傾向が大きいことがわかります。また高齢化率（H28）を見ても菊池市は 31.6%で県平均 29.5%を上回っています。「人口減」と「高齢化」により、地域行事が減少するなど、地域コミュニティが軽薄化しています。

高齢者の単身世帯や夫婦のみの世帯の増加により、今後は孤立化した世帯が多くなることが予想され、緊急時等に地域での連携が取りにくくなるなどの懸念があります。

## 2. 政策提案によって解決したい課題

市集落・定住支援室によると、H27年度以降の移住相談件数は1,056件、そのうち移住者数は42世帯（99人）です。菊池市への移住希望の主な目的は、「水がきれい」、「農産物の有機栽培をしてみたい」、「「ちょうどいい田舎」で田舎暮らしがしたい」です。

このような魅力ある癒しの里菊池の特徴を活かし、地域コミュニティの軽薄化の原

因に人口減少があることを踏まえ、我々は高齢者にターゲットを絞って移住を促します。なお、そのための施策には「生きがい」を見出せるものにします。

菊池市で趣味に没頭しながらいい汗を流した後に、温泉に入ってからだを癒してもらうことで、いきいきとしたセカンドライフを楽しんでもらう最高の環境を提供できるとともに、市の医療費削減にも期待できます。

### 3. 課題解決策の特徴、重要性、有効性

1つ目は高齢者でも移住したくなる環境づくりを行います。

生涯学習センターや地域の公民館を利用したイベント（布絵本講座や竹うま・竹とんぼづくり）に参加者としてだけでなく、講師の立場として積極的に招くことで、高齢者は「生きがい」を感じられると考えます。

2つ目は、子育て世代の負担軽減を図るために、子育て応援プロジェクトを行います。菊池市における児童虐待の相談件数は、平成25年度35件、平成26年度24件、平成27年度42件、平成28年度28件、平成29年度58件と、増加の傾向にあります。昨年度に相談のあった58件の虐待の種類は、子どもの前で配偶者に暴力をふるう、言葉による脅し等の「心理的虐待」が25件、食事を与えない、ひどく不潔にする等の「ネグレクト」が23件、殴る、蹴る等の「身体的虐待」が9件、「性的虐待」が1件となっております。

このように、子育ての負担が大きくなり、虐待等の相談件数が増えています。保育園等を活用して高齢者と孫世代の子どもの関わりを築く場を増やし、かるた大会や茶道教室などを園児と一緒にすることで「生きがい」づくりにもなり、それによって保護者も子育ての負担の軽減を図られるほか、高齢者本人の認知症予防などにもつながると考えます。

3つ目は、現在、山間部で軌道にのっている「集落サポートプロジェクト事業」を活用します。熊本地震の復興支援として他町で移動販売をされていた事業者が、引き続き菊池市内の山間部で事業を継続され、また同じように買い物支援の必要性を感じた三セク（4店舗）も移動販売事業を始めています。利便性の低い地域の住民と移動販売業者とをIT機器を使ってつなげることで、住民も必要なものをすぐに伝えることができます。

また、そのようなIT機器を地域の拠点に整備することで、みんなでネットショッピングを楽しんだり、集まった先で高齢者保健福祉事業の一つであるいきいき100歳体操を活用することで参加者も増加し、元気づくりと地域住民のコミュニティ形成とうまくマッチングし、高齢者の「生きがい」づくりにつながると考えます。